



◆其の六十五

天拝山
てんぱいざん

古代大宰府の一部を形成していた筑紫野市では、「学問の神様」菅原道真にまつわる伝説が数多く残されています。道真は学者でありながら、当時の政権ナンバー2である右大臣に昇進しました。しかし、それをねたまれて無実の罪を着せられ左遷されてしまいます。天拝山には、道真が潔白を天に訴えたという伝説が残っており、一夜にして名誉を失った道真の無念がしのべれます。

では、どうしてこの場所が伝説の舞台となったのでしょうか。当時の日本は、中国(唐)に遣唐使を送ることで中国からさまざまな制度や文化、思想を取り入れていました。その中に、王都の郊外にある祭壇の上で皇帝が天地を祭る儀式があり、日本でも平安時代の初め頃に同様の儀式が行われたこ

とが分かっています。

伝説がこの儀式を意識していたとすると、わざわざ大宰府郊外にあるこの場所で「天」に祈ったことは偶然ではないのかもしれない。

この山と道真の伝説が結びついたことが天拝山という山の名前の由来になったのではないのでしょうか。



天拝山 (右後方に大宰府政庁跡を望む)

関文化財課

